

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	
	第4回	発達障害 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では代表的な発達障害あるAD/HD、SLD、自閉スペクトラム症の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	
	第5回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	
	第6回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポデント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデュラ）	
	第7回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	
	第8回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるものうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	
	第9回	性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性	
	第10回	対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知、対人感情、関係の維持	
	第11回	臨床心理学（1） 精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第12回	臨床心理学（2） 分析心理学	

<p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>	<p>分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析</p> <p>臨床心理学（3） クライアント中心療法</p> <p>カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p> <p>心理療法（1） コラージュ療法</p> <p>心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words：心理療法、芸術療法、コラージュ療法</p> <p>心理療法（2） 箱庭療法</p> <p>箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words：コラージュ療法、箱庭療法、空間象徴</p>
<p>科目の目的</p>	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<p>1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</p>
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目】教育学、教育心理学、生命倫理、社会学、大学の学び入門、大学の学び—専門への誘い—、他職種理解と連携 【専門基礎科目】生理学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生学、看護技術論、臨床心理学、医療統計学</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室または1号館・4号館学生相談室）</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>なし</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
高野 利雄			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 人間の活動としての教育 教育とは何か 人間は教育によって何を達成しようとしているのか</p> <p>第2回 学習権という人権 義務教育 教育の機会均等 子どもの権利条約</p> <p>第3回 教育活動の時と場 人間の成長と発達課題 家庭・学校・社会での教育と学習</p> <p>第4回 学校教育の柱と方法 学習指導要領 教科と特別活動 生徒指導提要</p> <p>第5回 道徳教育とその位置づけ 特別の教科道徳の開始 道徳をどうとらえるか</p> <p>第6回 学校教育現場の諸問題 いじめ 不登校 学級崩壊</p> <p>第7回 教育活動の土台となる信頼関係 良好なコミュニケーション ゴードンメソッド</p> <p>第8回 さまざまな学習形態 アクティブラーニング シチズンシップエデュケーション</p> <p>第9回 キャリア教育 自らを生きる・生かす学び</p> <p>第10回 障害児教育 特別支援教育の考え方と実状 インクルーシブ教育</p> <p>第11回 家族の変化と教育 貧困格差と教育の課題 虐待への対応</p> <p>第12回 チームとしての学校 学校保健 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー</p> <p>第13回 社会教育と生涯学習 学校以外の学習の場 自分はどこまで学び続けるか</p> <p>第14回 教育に関係する法と制度 福祉 医療 教育の連携</p> <p>第15回 人生を支える学力とは</p>
科目の目的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。 【知識・理解】
到達目標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。
関連科目	心理学、教育心理学
成績評価方法・基準	試験（60％）、随時の提出物と授業への取り組み（40％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	必要に応じて指示する。
教科書・参考書	教科書・・・使用しない 参考書・・・講義時に紹介する
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
原 芳典			

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ（自分たちの体験を振り返る）</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期の心理と課題 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステータス）</p> <p>第8回 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル エクササイズ</p> <p>第9回 学校教育相談 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー エクササイズ（聞く態度）</p> <p>第10回 特別支援教育① 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か）</p> <p>第11回 特別支援教育② 現場での実践的課題 支援の実際</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「多様な生の子どもたち」 不登校やいじめの背景にある性的マイノリティ</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット）</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 学校臨床学という視点 潜在的カリキュラム 保健室と養護教諭 生活の場としての学校 まとめ エクササイズ（様々な私）</p>
科目の目的	自らが体験してきた教育を振り返ることにより、人と人とが関わる教育的出来事（事象）を心理学的に解明・理解する。
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学 カウンセリング ジェンダー論
成績評価方法・基準	定期試験50% および 課題（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなど）50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（10分程度）
教科書・参考書	教科書は とくに使用しない 参考書： 保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>1 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>2 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>3 運動とスポーツの生理学② ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ④運動時の酸素利用 ⑤トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>4 運動と・スポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>5 運動と・スポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>6 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体カトレーニングの原理と原則</p> <p>7 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―トレーニング概論― ②エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>8 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>9 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ③一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ④ドローイン</p> <p>10 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論 ― 筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>11 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論 ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>12 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>13 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>14 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。</p> <p>15 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。</p>
科目の目的	<p>健康と運動、老化と寿命等に関しその維持と増進方法について考える。特に筋トレの効果は、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減する。本講義では筋力トレーニングを体験しながらその効果をも体験しそれを発信できるようにする。またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。近年、スポーツを心理学的視点から科学的に究明しようとするスポーツ心理学の研究は、スポーツの普及・発展とともに広がりを見せ、スポーツへの参加や運動学習に関するものから、競技力向上や健康づくりに関するものまで多岐にわたっている。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定、情動の自己コントロール、スポーツの心理学的効果等も学習する。〔知識と理解〕</p>

到達目標	正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内に小レポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	実技・演習
授業計画	<p>1 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング</p> <p>2 体力測定① 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）</p> <p>3 心肺持久力 20mシャトルラン</p> <p>4 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール</p> <p>5 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>6 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>7 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール</p> <p>8 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>9 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>10 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール</p> <p>11 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>12 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>13 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール</p> <p>14 球技・トレーニング メディシングボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>15 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p>
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングを行い、体力をつけることを狙いとします。一人で簡単にできる筋力トレーニングを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでトレーニングしていきます。【知識と理解】</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促します。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指しましょう。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設けます。</p>
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。</p> <p>②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。</p> <p>③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80%）。小テスト（20%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書

	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：生命倫理

授業コード：1R006

英文科目名称：Bioethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
吉田 幸恵			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
金澤 秀嗣			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 予備考察： 哲〈学〉と哲〈学史〉 本講の目的と講義計画とに関する説明 哲学概論と哲学史 哲学史は「阿呆の画廊」か</p> <p>第2回 古代哲学 1 存在 「ある」とはどういうことか ミレトス学派/ ピュタゴラス学派/ 多元論</p> <p>第3回 古代哲学 2 生成 「ある」と「なる」 エレア学派/ ヘラクレイトス</p> <p>第4回 古代哲学 3 形而上学 〈イデア〉と〈エイドス〉 プラトン/ アリストテレス</p> <p>第5回 中世哲学 1 信仰と知は両立するか 中世教父哲学における神概念と人間像</p> <p>第6回 中世哲学 2 普遍が先か個物が先か スコラ哲学の論理</p> <p>第7回 近世・近代哲学 1 大陸合理論における〈精神〉と〈物質〉 デカルト</p> <p>第8回 近世・近代哲学 2 イギリス経験論による事物認識 ① ホブズ/ ロック</p> <p>第9回 近世・近代哲学 3 イギリス経験論による事物認識 ② バークリ/ ヒューム</p> <p>第10回 批判哲学とドイツ観念論 1 「私は何を知りうるか」 カント『純粹理性批判』の視座：〈現象〉と〈物自体〉</p> <p>第11回 批判哲学とドイツ観念論 2 「私は何をなすべきか」 カント『実践理性批判』の要請：〈定言命法〉</p> <p>第12回 批判哲学とドイツ観念論 3 絶対的自我と共同体 フヒテの超越論的哲学と国家論</p> <p>第13回 批判哲学とドイツ観念論 4 存在と認識の一致 人倫的自然としての民族 ヘーゲルによる主観的観念論・社会契約論・悟性国家論批判</p> <p>第14回 批判哲学とドイツ観念論 5 〈承認〉に基づく法の形成 ヘーゲルの相互承認論と法哲学</p> <p>第15回 講義の総括と展望 〈真理が顕現する過程〉としての哲学史</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。差し当たり古代から近代へ至る哲学史の系譜をたどり、哲学という学問の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。 2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。 3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 主として「生命倫理」・「人間と宗教」等の科目と関連を有する。 ● また特に近世・近代哲学が主題となる講義回にあつては、「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」等の諸科目と関連するテーマも適宜取り上げられる。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。 ● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。 ● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。 ● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。 ● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。 ● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
尾形 大			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 〈変身〉する人間① カフカ「変身」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理</p> <p>第2回 〈変身〉する人間② カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第3回 〈共存〉する世界① 川上弘美「神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第4回 〈共存〉する世界② 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第5回 〈神様〉の功罪① 志賀直哉「小僧の神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第6回 〈神様〉の功罪② 志賀直哉「小僧の神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第7回 〈復讐〉される人間① 宮沢賢治「注文の多い料理店」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第8回 〈復讐〉される人間② 宮沢賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第9回 〈虚無〉と女性① 平林たい子「施療室にて」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第10回 〈虚無〉と女性② 平林たい子「施療室にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第11回 〈幽閉〉される個人① 井伏鱒二「山椒魚」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第12回 〈幽閉〉される個人② 井伏鱒二「山椒魚」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第13回 〈戦争〉と文学① 大岡昇平「靴の話」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第14回 〈戦争〉と文学② 大岡昇平「靴の話」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第15回 既出事項のまとめ・総括 ☆小レポートの返却・確認</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の鑑賞を通じて、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る〔知識・理解〕。 2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。 3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の力で教材を丁寧に読解し、不明な語句・表現を調べる。 2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。 3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。
関連科目	芸術・哲学・社会学
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（60%）＋1600字程度の期末レポート（40%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間） ・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）
教科書・参考書	使用しません（授業内で配布）
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
竹村 一男			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 宗教本質論 宗教とは何か 宗教の定義、類型と、宗教の研究分野について例をあげて解りやすく説明する。</p> <p>第2回 宗教本質論 宗教思想の変遷 過去の哲学、神学、心理学などの代表的な思想は、宗教をどのように解釈してきたかききたかを講述する。3大宗教について、その概要に言及する。</p> <p>第3回 キリスト教概説 キリスト教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、中国仏教、チベット仏教にも言及する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第7回 日本の民俗宗教 祖霊信仰や神社神道などの日本の民俗宗教について、その歴史や事例、様々な儀礼や祭祀について、画像を交え説明する。</p> <p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教について、長い歴史と多数の信徒をもつユダヤ教とヒンドゥー教を中心に講述する。</p> <p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、日本に与えた影響などにも言及し講述する。</p> <p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。</p> <p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 主に比較宗教学、宗教社会などの人文科学の視点からなされてきた研究学説について概説し、講師の研究事例についても講述する。</p> <p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について画像を中心に講述する。宗教史跡などの世界文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題や、宗教動向、宗教と民族紛争の事例などについて講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。</p> <p>第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は講義のまとめを行う。</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。そして、ある時は宗教に救済を求め、宗教を畏敬の対象とし、宗教に自らの死生観を求め、宗教にモラル以上の価値観を認める人達もいる。その一方では宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本授業においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに代表的な宗教を取上げ、その教義・歴史・文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・異文化・社会理解にも繋がる。講義を通して、受講生が各々の視点、切り口から人間と宗教、さらに文化・社会の理解に近づくことを目的とする。なお、医療現場においては宗教の救済観、死生観理解も大切であることを付記したい。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。 ● 宗教とは何であるか、各自の宗教観を形成する。
関連科目	哲学 芸術 社会学
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習15時間。講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある宗教分野に関する聖典や文学作品などに並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（廃版）など。仏教、キリスト教関係なども多数あり。

教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書 1 『法華経』坂本幸男・岩本裕訳注（岩波文庫） 参考書 2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書 3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
東 晴美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p> <p>第2回 ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p> <p>第3回 劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p> <p>第4回 観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p> <p>第5回 身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p> <p>第6回 ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第7回 能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p> <p>第8回 狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p> <p>第9回 歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p> <p>第10回 文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第11回 ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p> <p>第12回 アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p> <p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ：ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展を遂げた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身</p>

	につけます。【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	毎回プリントを配布します。
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西川 久貴			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 法学1 法律の種類、法の機能、法の定義、文化としての法、道徳と法</p> <p>2 法学2 法の発展、現代社会における法の機能</p> <p>3 法学3 国家と法、犯罪と法</p> <p>4 法学4 家族生活と法、財産関係と法</p> <p>5 法学5 労働と法、国際社会と法</p> <p>6 憲法総論1 憲法の意味、日本国憲法の成立、大日本帝国憲法との違い</p> <p>7 憲法総論2 国民主権の原理、平和主義の原理、憲法9条の考え方</p> <p>8 基本的人権1 人権の意味、人権の種類、幸福追求権、法の下での平等</p> <p>9 基本的人権2 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由</p> <p>10 基本的人権3 表現の自由、集会・結社の自由、通信の秘密</p> <p>11 基本的人権4 職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障</p> <p>12 基本的人権5 人身の自由、参政権、生存権</p> <p>13 統治機構1 権力分立の原理、国会</p> <p>14 統治機構2 内閣、裁判所</p> <p>15 統治機構3 憲法改正の手続</p>
科目の目的	<p>■現代社会における法の機能の基礎的理解。 社会人として、高度に複雑化する現代社会を理解し、様々なトラブルを法的に解決する糸口を見つけられる（現実の社会がどのような基本的な仕組みをもっているかを教養として身につけ、人生を送る上で生じた問題を解決する的方法を理解する。）。</p> <p>■日本国憲法の基礎的理解。 日本国憲法においてベースとなる価値である人権や法の支配とはどのようなものか、それらの価値を維持・発展するための仕組みにはどのようなものがあるかを理解する（基本的人権や法の支配といった価値を擁護することによって社会に貢献する姿勢を身につける。）。</p>
到達目標	<p>■日本国憲法が規定する基本原理や価値の基礎的な理解ができる（その基本原理や価値を擁護することを出発点として、物事を考えることができる。）。</p> <p>■制度の趣旨及び機能を、制度の沿革や諸々の価値の比較検討を通じて、具体的に明らかにする。そのうえで、一定の結論を導き出すことができる（ある社会の仕組みが目指しているものを理解して、その仕組みが抱える問題点について自分なりの考えを持つことができる。）。</p>
関連科目	生命倫理，社会学，環境学，経済学
成績評価方法・基準	筆記試験（短い論述問題含む）により評価（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義内容に関する時事問題又は身近な問題についての自分なりの検討。 準備学習に必要な学習時間の目安は1時間です。
教科書・参考書	教科書は使用しません。 参考書：「法と社会 新しい法学入門」碧海純一（中公新書） 「現代法学入門（第4版）」伊藤正己 加藤一郎編（有斐閣双書） 「憲法（第6版）」芦部信喜 高橋和之補訂（岩波書店）

オフィス・アワー	講義の前後。講師控室または講義室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料は講義の前日までにはActive Academyにアップロードするので、各自プリントアウトのうえ持参ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>
関連科目	法学（日本国憲法含む） 経済学 生活文化と医療 地域ボランティア活動論
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。生活文化を軸に、迷信と俗信の違いを考えます。</p> <p>第2回 医療民俗学とは？ 医療と民俗の接点を考え、生活文化から生成された医療習俗の特徴を理解します。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 人びとの暮らしから医療に関連する民間療法やまじない、祭礼、年中行事を学びます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 道祖神を取り上げ、石仏に込められた人びとの思いと信仰内容を取りあげます。あわせて、現代社会に機能する道祖神のあり方をみていきます。</p> <p>第5回 映像鑑賞 盲目の旅芸人 瞽女さん 三味線を手を持って、越後や北陸の村々を巡った瞽女さんの生活様式を考えます。</p> <p>第6回 生死の表現 テキストを中心に『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図など、文学作品や絵画に描かれた生死の資料を取り上げ、その内容を理解します。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容に合わせて「いのち」を軸とした、人の一生の各種儀礼とその節目について考えます。</p> <p>第8回 名づけの民俗とキラキラネーム 伝承的な名づけと、現代的な名づけといえるキラキラネームの命名方法と特徴を理解します。</p> <p>第9回 霊魂が宿るもの 私たちが普段何気なく使う物には、霊魂が宿ると言われています。テキストの内容から、物に宿る霊魂観について考えます。</p> <p>第10回 老いと民俗 生活文化の視点（主に民俗芸能）から、地域社会で活躍する高齢者の「生きがい」と健康維持の方法をみていきます。また老いと福祉に関することも学びます。</p> <p>第11回 長寿祝いと民俗 テキストに沿って全国各地の長寿祝いの方法をみていきます。また、高齢化社会を象徴する人生儀礼について考えます。</p> <p>第12回 病気と民俗 病気をめぐる生活文化のあり方と、暦との関係を理解します。</p> <p>第13回 看取りと死 最後の時を迎えるとき人はどのような思いを持つのか、また臨終に際し残された家族はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第14回 お葬式の今昔 伝統的な葬送儀礼を出発点に、今日の葬送儀礼の特徴を理解します。過去と現在の葬儀を比較し、その変化を考えます。</p> <p>第15回 まとめ（課題提出の説明） 本授業では、「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、自分の原点に振り返り、生を探求し、どのような最期を迎えたいかを書いてもらいます。死生観に対する自分の考えを知ることが、患者とその家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来ると考えます。最後の授業ではレポート課題の説明と書き方、これまでの授業内容の確認をします。</p>
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしを取り上げ、具体的に一つずつ丁寧に紹介していきます。日常的生活と医療の繋がりを言及し、現代医療の諸問題にも触れていきたいと思えます。病に掛かると、人びとは現代医療を受ける一方で、健康を願い、まじないやお守りなど呪術的医療を心の拠り所としています。地域社会に根差した医療的習俗やその方法を学ぶことで、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。
到達目標	医療と民俗（生活文化・知識）の接点を学ぶなかで、現代社会にみられる伝統的な儀礼や慣行の意味を理解できるよう、生活に関わる医療と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に眼を向けることで、医療従事者としてのいろいろな視点から物事を捉え、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。
関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日々の生活の中で、医療に関連する事柄（健康維持、病気など）に興味を持ってください。また、身近な人たち（父母、祖父母など世代の異なる人）がどのようにに人生の節目を迎え、年を重ねてきたのか、関心を寄せましょう。自分の周りを注意深く観察することで、問題点を発見する癖がつかます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。

教科書・参考書	教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社 参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館 参考書2：市川秀之・福田アジオ他編 2015『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み（1） アダム・スミスを取り上げます。</p> <p>第3回 経済学の歩み（2） マルクス、歴史学派を取り上げます。</p> <p>第3回 経済学の歩み（3） 新古典派、ケインズを取り上げます。</p> <p>第4回 国民経済の仕組み 経済の3主体、国民経済の仕組みと租税について説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」（景気動向指数、日銀短観等）を読んでいきます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場メカニズム、市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 財政・金融政策（1） 財政政策（税制、財政支出）について説明します。</p> <p>第9回 財政・金融政策（2） 金融政策（金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、非伝統的金融政策）について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第12回 貿易・国際収支 国際収支とは何か、「国際収支表」を通して日本の貿易・国際収支の現状について確認します。</p> <p>第13回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第14回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p> <p>第15回 日本の社会保障制度 日本の社会保障制度（医療・年金・介護）の現状について説明します。</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。
関連科目	特にありません。
成績評価方法・基準	授業内における小テスト100%（3回、プリント参照可）、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。
国家試験出題基準	該当しません。

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
-------------	---

講義科目名称：地域ボランティア活動論

授業コード：1R015

英文科目名称：Volunteer Activities in a Community

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
竹澤 泰子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 環境とは 環境問題の範囲と拝啓</p> <p>2 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>3 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>4 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>5 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>6 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>7 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>8 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>9 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>10 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>11 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>12 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>13 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>14 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>15 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】 【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）</p> <p>第2回～3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第4回～5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成～と配偶子の形成～</p> <p>第6～7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（70%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻 D. サダヴァ他著 ブルー--バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に活かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。
-------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回～2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・呼吸：生体のエネルギー産生過程とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について</p> <p>第2回～3回 細胞科学の先端研究概観 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質とオートファジー ③細胞周期調節のしくみとがん化 ④幹細胞－幹細胞の種類と細胞の再生－ ⑤ES細胞とiPS細胞 ⑥細胞分裂の限界と老化</p> <p>第4回～5回 遺伝－ヒトを中心に－その1 ①DNA：複製の機構と遺伝情報 ②遺伝情報発現の詳細 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構） ⑤性染色体の不活化 ⑥DNAの変異と修復機構</p> <p>第6回 遺伝－ヒトを中心に－その2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 常染色体性優性遺伝病、劣性遺伝病と伴性遺伝病 ②ミトコンドリア病 ③多因子遺伝病 ④保因者・患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ⑤染色体異常</p> <p>第7～8回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ④内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。 ③真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ④ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ⑤ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（70%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。
-------------	---------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 指数表現 指数法則、非自然集乗、科学的表記法と精度。</p> <p>2 変数計算 実用的な文字式の計算。x以外の文字にも慣れる。</p> <p>3 関数 方程式・関数・恒等式、パワフルで支配的な項とは？</p> <p>4 対数 対数の導入、対数法則。</p> <p>5 対数の利用 常用対数による近似、対数方眼紙の利用、pH。</p> <p>6 複素数 虚数の導入と計算法、複素共役、極座標表示と回転。</p> <p>7 確率・統計的判断 期待値、事後確率、統計処理、検定の趣旨、相関関係と因果関係の違い。</p> <p>8 論理と命題 必要条件・十分条件・必要十分条件。裏・逆・対偶。論理的な判断とは？</p>
科目の目的	高校までの数学のうち科学の基礎となる部分を復習する。 科学的知見に基づく医療を行うために欠かせない、定量的な評価、論理的な分析を行う能力の基礎を身につける。
到達目標	<p>1. 基礎的かつ必要となる数学概念の復習。</p> <p>2. 感覚的にではなく、数值的・論理的に現象を捉えるセンスを身につける。</p> <p>3. 数値だけが一人歩きするようなことの無いよう、適用できる範囲の判断ができるようになる。</p>
関連科目	数学B、化学A・B、医用基礎数学、医用基礎物理学、医用基礎化学、医療電気・電子工学
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。 前回分の演習問題、作業課題はこなしておくこと。
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：特になし
オフィス・アワー	いつでも
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	数学Bも履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 三角関数の基礎 一般角、弧度法、三角比から三角関数へ、三角関数の基本的性質とグラフ。</p> <p>2 三角関数のグラフの読み取りと加法定理 三角関数のグラフの読み取り。加法定理。</p> <p>3 加法定理の応用 同じ周期の三角関数の合成、和と積の変換。</p> <p>4 微分の導入 微分の定義、整式の微分。</p> <p>5 微分の基本性質1 微分の線形性、積の微分、合成関数の微分、</p> <p>6 微分の基本性質2、三角関数の微分 逆関数の微分、高次導関数、三角関数の微分、三角関数の近似。</p> <p>7 積分の導入 不定積分、定積分。</p> <p>8 区分求積と物理への応用・微分方程式 変化する量に対する積。仕事、エネルギー、微分方程式の初歩。</p>
科目の目的	高校までの数学のから半歩だけ踏み出し、ニュートン以降の科学を支える数学的技法「微積分」の基礎を固める。
到達目標	<p>1. 科学に必要となる数学概念の復習。</p> <p>2. 時間変化する現象に対する数値的取り扱いを学ぶ。</p>
関連科目	数学A、医用基礎数学、医用基礎物理学、医療電気・電子工学
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。 前回分の演習問題、作業課題はこなしておくこと。
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：特になし
オフィス・アワー	いつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	数学Aも履修することが望ましい

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特有な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。</p> <p>2 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。</p> <p>3 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。</p> <p>4 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。</p> <p>5 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。</p> <p>6 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。</p> <p>7 円運動 等速円運動。</p> <p>8 バネと単振動 単振動。</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]、[思考・判断]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。
関連科目	物理学B、医用基礎物理学、数学A・B、医用基礎数学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 ―現代人のための高校理科 講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	いつでも
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：物理学B

授業コード：1R024

英文科目名称：Physics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 熱現象 1 熱と温度、比熱</p> <p>2 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱</p> <p>3 熱現象 3 気体分子運動論</p> <p>4 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉</p> <p>5 波動 2 ドップラー効果</p> <p>6 電気の基礎 1 クーロン力、電界、電位</p> <p>7 電気の基礎 2 電気力線とガウスの法則、コンデンサ</p> <p>8 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 [知識・理解]、[思考・判断]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。
関連科目	物理学A、医用基礎物理学、数学A・B、医用基礎数学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	いつでも
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	物理Aも履修しておくことを強く勧める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、授業の資料の作り方、自己紹介</p> <p>第2回 Chapter 1 Animals in Zoos 動物園の要不要についてForとAgainstの意見を読んで、論旨を理解する。</p> <p>第3回 Chapter 1 Animals in Zoos 前回の内容理解をもとに動物園の要不要についてグループごとにどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる。</p> <p>第4回 Chapter 2 Security Camera 監視カメラについてのForとAgainstの意見を読んで、論旨を理解する。</p> <p>第5回 Chapter 2 Security Camera 前回の内容理解をもとに監視カメラの是非について、グループごとにどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる。</p> <p>第6回 Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? 顧客サービス過多についてForとAgainstの意見をグループでまとめ、発表する。</p> <p>第7回 Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? 前回の内容理解をもとに顧客サービスの在り方についてグループでどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる、発表する。</p> <p>第8回 Chapter 4 Digital Manual, Catalogs, and Textbooks デジタルかアナログか、ForとAgainstの意見をグループでまとめ、発表する。</p> <p>第9回 Chapter 4 Digital Manual, Catalogs, and Textbooks 前回の内容理解をもとにデジタル化についてグループでどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる、発表する。</p> <p>第10回 Chapter 5 Womenomics 働く女性の増加政策についてForとAgainstの意見をグループでまとめ、発表する。</p> <p>第11回 Chapter 5 Womenomics 前回の内容理解をもとに、女性労働者の増加政策についてグループでどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる、発表する。</p> <p>第12回 Chapter 6 Extreme Sports Extreme SportsについてForとAgainstの意見をグループでまとめ、発表する。</p> <p>第13回 Chapter 6 Extreme Sports 前回の内容理解をもとにExtreme Sportsの是非について、グループでどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる、発表する。</p> <p>第14回 Chapter 7 Casinos and Gambling カジノとギャンブルについてForとAgainstの意見をグループでまとめ、発表する。</p> <p>第15回 Chapter 7 Casinos and Gambling 前回の内容理解をもとにカジノとギャンブルの是非について、グループでどちらのsideに賛成かdiscussし、意見をまとめる、発表する。</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、とりわけリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して、自分の意見を持ち、表現する。【技能・表現】
到達目標	テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 テキストのトピックについて自分の意見を持って、それを表現できる。 テキストやgraded readerの音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 extensive readingの目標は10,000words。口語表現、日常生活での英語表現が理解でき、使うことができる。
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	前期末試験（40%）グループワーク（50%）extensive reading（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：個人として、次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。グループワークにおいては各々の準備学習の上に、グループとしてよく討論してまとめること。extensive readingは各自のペースでやさしい読み物を読み、quizに答えながら内容を把握する。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。予習復習合わせて約90分。
教科書・参考書	教科書・Taking Sides: Opinions For and Against, 『白熱議論：どちらに賛成?』 Mark Jewel(朝日出版社), 2017年。

オフィス・アワー	講義日の昼休み、4号館8階杉田研究室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
David Andrews			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 Course Introductions introduction to the course, class format, expectations, syllabus, grading scale</p> <p>2 Meeting patients</p> <p>3 Taking a medical history</p> <p>4 Assessing symptoms</p> <p>5 Taking vital signs</p> <p>6 Taking a specimen</p> <p>7 Conducting a medical examination</p> <p>8 Assessing pain</p> <p>9 Midterm review Mid term review</p> <p>10 Advising about Medication</p> <p>11 Improving mobility</p> <p>12 A Good diet</p> <p>13 Caring for Inpatients</p> <p>14 Coping with Emergencies</p> <p>15 Review of lessons 10-14</p> <p>16 Review of all lessons</p>
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course seeks to introduce students to helpful communication strategies and explores international issues in medicine. This course is to further develop students' proficiency and communicative skills in English. It forms a link to their major field of medicine, whose objectives include a broad knowledge of medicine, medical ethics, high standards as a clinician along with productive teamwork.
到達目標	Students will be able to 1) utilize and participate in the major speech acts of greetings, description, and explanation in medical situations 2) describe and discuss major medical topics 3) Design an individual lifelong plan for learning English.
関連科目	Related to English Reading
成績評価方法・基準	<p>1. Class Attendance and Participation (20%) During each class session we will discuss issues and questions related to the weekly chapter.</p> <p>2. Presentation (20%) Students will work to lead part of one of the class sessions.</p> <p>3. In class quizzes (40%) covering material from the book.</p> <p>4. Final exam (20%) Covering all topics and discussion from class.</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the book. Please read the dialogue, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Each chapter will require about 30 minutes on your own to review and study. In addition you will need about 5 hours during the semester to prepare an individual presentation
教科書・参考書	Caring For People

オフィス・アワー	Monday 5th period (email for appointment)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class in pairs and small groups. Review the pronunciation and grammar from the text in order to use it in class.

講義科目名称：医療英語リーディング

授業コード：1R027

英文科目名称：Medical English Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語会話

授業コード：1R028

英文科目名称：General English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
Joseph Boland			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：1R029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
山本 三穂			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>2 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音</p> <p>3 子音の発音 子音と声調</p> <p>4 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>5 第1課 簡単な日常会話 あいさつの表現</p> <p>6 第2課 お名前は何ですか 自分の名前の発音を覚える</p> <p>7 第3課 これは何ですか 本文と練習問題</p> <p>8 第4課 どの国の人ですか 本文と練習問題</p> <p>9 第5課 これは誰の鉛筆ですか、第6課 今日は何曜日ですか 本文と練習問題</p> <p>10 第7課 今日は「何日」ですか、第8課 今何時ですか 本文と練習問題</p> <p>11 第9課 いくつですか、第10課 いくらですか 本文と練習問題</p> <p>12 第11課 何を買うつもりですか、第12課 何人家族ですか 本文と練習問題</p> <p>13 第13課 中国語教室はどこですか、第14課 図書館に中国語の本はありますか 本文と練習問題</p> <p>14 第15課 趣味はなんですか、第16課 中国語が話せますか 本文と練習問題</p> <p>15 第1課から第16課までの復習 総合復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。
教科書・参考書	教科書：じっくり学ぶ中国語（金星堂） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	演習
授業計画	<p>第一回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第二回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統料理を紹介する。</p> <p>第三回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第四回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統茶を紹介する。</p> <p>第五回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第六回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第七回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読みをまとめ、復習する。</p> <p>第八回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第九回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第十回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。文化としての伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第十一回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十二回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統遊びを紹介する。</p> <p>第十三回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十四回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第十五回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高 裕輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・ドイツ語のアルファベット・ドイツ語の表現① ドイツ語学習のための導入、挨拶表現</p> <p>第2回 ドイツ語の語と発音①、文法①、ドイツ語の表現② ドイツ語の発音の特徴、人称・動詞の現在人称変化、挨拶表現</p> <p>第3回 ドイツ語の語と発音②、文法②、ドイツ語の表現③ 注意すべき発音、ドイツ語の文の作り方（平叙文・疑問文）、自己紹介</p> <p>第4回 ドイツ語の語と発音③、文法③、ドイツ語の表現④ 注意すべき発音、ドイツ語の文についての演習、国や職業を表す語</p> <p>第5回 文法④、ドイツ語の表現⑤ 名詞の性別と冠詞、ドイツ語の数詞</p> <p>第6回 小テスト①、ドイツ語の表現⑥ 第1回～第5回の内容の小テスト</p> <p>第7回 小テスト①解説、復習 小テスト返却・解説、これまでの内容の再確認</p> <p>第8回 文法⑥、ドイツ語の表現⑦ 格・冠詞の格変化、数詞・時間表現</p> <p>第9回 文法⑦、ドイツ語の表現⑧ 格・冠詞の格変化・人称代名詞の格変化、曜日や月などの表現</p> <p>第10回 文法⑧、ドイツ語の表現⑨ 不規則に変化する動詞・動詞の命令形、会話表現</p> <p>第11回 小テスト②、ドイツ語の表現⑩ 第7回～第10回の内容の小テスト</p> <p>第12回 小テスト②解説、復習 小テスト返却・解説、これまでの内容の再確認</p> <p>第13回 文法⑨、ドイツ語の表現⑪ 名詞の複数形、会話表現</p> <p>第14回 文法⑩、ドイツ語の表現⑫ 所有冠詞、否定冠詞、会話表現</p> <p>第15回 まとめ、演習</p>
科目の目的	<p>初歩的な文法、発音、会話表現の習得を主目的とします。語学の能力の習得だけではなく、これまで主に学習してきた英語以外の多様な世界に触れること、またドイツ語が使われている世界の文化や風習もまた多様であることを理解することも目的とします。</p> <p>また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。</p>
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。
関連科目	「多職種理解と連携」
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、小テスト2回(40%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありませんが、復習が極めて重要でありより多くを費やしてください(15分程度)。また1度の復習だけでは記憶には定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう(30分×3程度)。</p> <p>①予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。</p> <p>②復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。</p>
教科書・参考書	教科書：クロイツング・ネオ(Kreuzung Neo) 朝日出版社 ISBN:978-4255253459
オフィス・アワー	主に授業の前後
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
鳥越慎太郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ポルトガル語について ポルトガル語の読み方</p> <p>第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文</p> <p>第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar</p> <p>第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)</p> <p>第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir</p> <p>第6回 今おこなっていることの表現、天気の表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar</p> <p>第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)</p> <p>第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形</p> <p>第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形</p> <p>第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法</p> <p>第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞</p> <p>第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現</p> <p>第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形</p> <p>第14回 比較の表現ができる 比較の表現</p> <p>第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現</p>
科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると</p>

	同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくことも目指します。
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末試験(80%)、授業5回毎に行う小テスト(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他. 『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』. 朝日出版社.</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編). 『デイリー日葡英・葡日英辞典』. 三省堂. 市之瀬敦他(編). 『プログレッシブポルトガル語辞典』. 小学館.</p> <p>その他、ウェブページでの資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	授業後の時間
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
星野 修平			

授業形態	演習
授業計画	<p>1 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照</p> <p>2 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術</p> <p>3 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ</p> <p>4 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照</p> <p>5 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本</p> <p>6 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～</p> <p>7 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照</p> <p>8 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文書校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照</p> <p>9 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照</p> <p>10 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照</p> <p>11 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照</p> <p>12 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照</p> <p>13 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～</p> <p>14 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照</p> <p>15 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照</p>
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。

関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B)最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
星野 修平			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト</p> <p>2 コンピュータの仕組み (1) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 1. コンピューターの歴史 2. コンピューターの処理の基本 3. 文字コードとフォント</p> <p>3 コンピュータの仕組み (2) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク</p> <p>4 インターネットの技術 (1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN 2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ</p> <p>5 インターネットの技術 (2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か</p> <p>6 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮</p> <p>7 情報セキュリティ (1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピューターウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法</p> <p>8 情報セキュリティ (2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解</p> <p>9 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律</p> <p>10 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考</p> <p>11 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考</p> <p>12 情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考</p> <p>13 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)</p> <p>14 情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考</p> <p>15 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。</p>

科目の目的	情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。
到達目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます） * 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁			
青木 喜久代			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説（6路盤） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解（9路盤） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①（19路盤） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。</p>
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。
関連科目	放射線救急医学
成績評価方法・基準	レポート（60%）、実技評価（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。 準備学習時間の目安は20分。
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは (杉田)</p> <p>第2回 調べる 情報を探す (杉田)</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー1 (星野)</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー2 (星野)</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには (杉田)</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か レポート作成の手順 (杉田)</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方2 論文作法 (杉田)</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方3 レポートの形式 (杉田)</p> <p>第9回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第10回 自身の課題を見つける、書く：レポートを書く 前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す。 レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第11回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。 (榎本)</p> <p>第12回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。 (榎本)</p> <p>第13回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する (榎本)</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出 (杉田) レポートは後期開始後評価と共に返却する。</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。 (スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル)</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%）、榎本担当意見文・感想文（30%）、星野担当感想文（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：講義の前後、昼休み、4号館8階杉田研究室 星野：講義終了後 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305 1号館学生相談室、4号館学生相談室
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	プリントはActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
木村 朗			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 保健科学総論（1）（木村） 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらまし</p> <p>第2回 保健科学総論（2）（木村） 保健科学を具他の事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー</p> <p>第3回 「大学の学び入門－専門への誘い－」概論（土屋） 医療専門職としての診療放射線技師と医療コミュニケーションの重要性について</p> <p>第4回 診療放射線技師の業務と役割1（土屋） 「診療画像検査」と「放射線治療」の概要について述べる</p> <p>第5回 診療放射線技師の業務と役割2（土屋） グループワーク（1）</p> <p>第6回 診療放射線技師の業務と役割3（土屋） グループワーク（2）</p> <p>第7回 診療放射線技師の業務と役割4（土屋） グループワーク（3）</p> <p>第8回 診療放射線技師の業務と役割5（土屋） グループワーク発表とディスカッション</p> <p>第9回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション1（土屋） 概要説明</p> <p>第10回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション2（土屋） グループワーク（1）</p> <p>第11回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション3（土屋） グループワーク（2）</p> <p>第12回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション4（土屋） グループワーク（3）</p> <p>第13回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション（5）（土屋） グループワークのまとめ</p> <p>第14回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション（6）（土屋） 全体セッション：グループワークの成果発表</p> <p>第15回 まとめ（土屋） グループワークのまとめとディスカッション、総評</p>
科目の目的	グループワーク学習と集団ディスカッションを通じて、自らの診療放射線技師像を育み、明確専門基礎分野、専門分野の学習の学ぶ意義と医療における知識と理解を明確にする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療放射線技師の職務内容と職域が説明できる。 2. 理診療放射線技師を目指す学生として必要な社会的な礼節およびコミュニケーションをもって行動できる。 3. 自らの診療放射線技師像を説明することができる。 4. 診療放射線技師を学ぶことに興味を持ち、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を示すことができる。
関連科目	大学の学び入門 すべての専門基礎分野、専門分野の科目
成績評価方法・基準	提出課題（40%）、グループ討議への参加状況（30%）、発表点（30%）の総合点による評価
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に定めないが、授業の終了時に意見交換を行うこと
教科書・参考書	教科書：診療放射線技師プロフェッショナルガイド 東村享治 文光堂 参考書1：医療者のためのコミュニケーション入門 杉本なおみ 精神看護出版
オフィス・アワー	木村：メールにて問い合わせること。 土屋：随時
国家試験出題基準	3.1.1.A`C, 3.6.1`3
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：1R039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
矢島 正栄	中 徹	藤田 清貴	芝本 隆

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 序論 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>第2回 序論 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>第3回 骨格系 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>第4回 骨格系 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>第5回 骨格系 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨</p> <p>第6回 骨格系 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>第7回 筋系 筋の構造と機能 頭頸部の筋</p> <p>第8回 筋系 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋</p> <p>第9回 筋系 脈管系 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋 血管系総論</p> <p>第10回 脈管系 心臓 刺激伝導系 心臓の血管（冠状動脈） 肺循環と体循環</p> <p>第11回 脈管系 動脈系 静脈系</p> <p>第12回 脈管系 胎生時の循環系 リンパ系（リンパ節 リンパ本幹） 脾臓 胸腺</p> <p>第13回 脈管系 消化器系 血液・血球・造血組織 粘膜 腺 歯</p> <p>第14回 消化器系 口蓋 舌 唾液腺 咽頭</p> <p>第15回 消化器系 食道 胃</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【診療放射線技師】 《専門基礎分野》－Ⅰ-1-A-a, b, c, d B-a, b, c C-a, b, c 2-A-a B-a, b C-a, b, c, d 4-A-a, b, c, d B-a 6-A-a, b, c, d B-a, b 7-A-a, b B-a, b 8-A-a, b
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 消化器系 小腸（十二指腸 空腸・回腸） 大腸 肝臓</p> <p>第2回 消化器系 呼吸器系 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第3回 呼吸器系 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺</p> <p>第4回 泌尿器系 生殖器系 腎臓 尿管 膀胱 尿道 精巣・精巣上体</p> <p>第5回 生殖器系 精管 精嚢と前立腺 陰茎 精液と精子 卵巣 卵管 子宮 胎盤 膣と外陰部</p> <p>第6回 腹膜 内分泌系 腹膜 下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島</p> <p>第7回 神経系 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄と橋 小脳 中脳）</p> <p>第8回 神経系 間脳 大脳</p> <p>第9回 神経系 脳の血管 脳室と脳脊髄膜</p> <p>第10回 神経系 末梢神経（脳神経 脊髄神経）</p> <p>第11回 神経系 脊髄神経 自律神経系（交感神経 副交感神経）</p> <p>第12回 神経系 感覚器系 伝導路 視覚器（眼球）</p> <p>第13回 感覚器系 視覚器（眼球の付属器） 平行聴覚器（外耳 中耳 内耳）皮膚 角質器</p> <p>第14回 感覚器系 発生学 皮膚の腺 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第15回 発生学 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【診療放射線技師】 《専門基礎分野》－Ⅰ-5-A-a, b, c, d B-a C-a, b 7-C-a, b D-a, b, c 9-A-a, b B-a, b 10-A-a, b, c B-a C-a, b, c 11-A-a 12-A-a B-a, b C-a D-a E-a 13-A-a B-a C-a
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>2、3 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>4、5 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>6～8 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>9～12 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>13～15 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学 I・II、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴呂富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00～19:00
国家試験出題基準	1-1-1-A-b, c, d 1-1-1-D-a 1-1-2-A-a 1-1-2-B-b 1-1-4-B-a 1-1-10-A-a, c 1-1-10-B-a 1-1-10-C-a, b, c 1-1-12-B-a, b 1-1-12-C-a 1-1-12-D-a 1-1-12-E-a
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1、2 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>3～5 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>6、7 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>8、9 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>10、11 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>12、13 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>14、15 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄（南江堂） 参考書：「標準生理学」（医学書院） 「人体の正常構造と機能」（日本医事新報社） 「トートラ 人体の構造と機能」（丸善） 他
オフィス・アワー	講義実施日の18：00～19：00
国家試験出題基準	1-1-3-A-a, b 1-1-5-A-a, d 1-1-5-C-a, b 1-1-6-A-a, b, c, d, e 1-1-7-A-b 1-1-7-B-a, b 1-1-7-C-a, b 1-1-8-A-b 1-1-9-A-a, b, c, d 1-1-11-A-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 序論 病理学とは 病因論 内因外因。公害病と医原病。疾病の分類。</p> <p>2 先天異常 奇形。奇形の種類。遺伝の関与。遺伝異常による疾患。遺伝性疾患の診断と治療。</p> <p>3 代謝異常 1 細胞の障害と適応。変性。壊死とアポトーシス。細胞の適応。</p> <p>4 代謝異常 2 物質沈着による細胞障害。脂質代謝異常と疾患。タンパク質代謝異常と疾患。</p> <p>5 代謝異常 3 糖代謝異常と疾患。有機質、無機質代謝の異常と疾患。</p> <p>6 循環障害 1 循環器系 循環血液量の異常。充血うっ血、出血虚血、ショック。</p> <p>7 循環障害 2 閉塞性の循環障害。血栓症。播種性血管内凝固。塞栓症。側副循環とは。リンパ系の疾患。</p> <p>8 炎症と免疫、膠原病 1 炎症。炎症の原因、経過、治療。創傷治癒。炎症の各型。</p> <p>9 炎症と免疫、膠原病 2 免疫とアレルギー。自然免疫系と適応免疫系。免疫担当細胞。抗体と補体。能動免疫と受動免疫。</p> <p>10 炎症と免疫、膠原病 3 免疫不全。先天性免疫不全。エイズ。移植と自己免疫。主要組織適合複合体。膠原病。</p> <p>11 腫瘍 1 腫瘍の定義と分類。異型度、分化度、悪性度。悪性腫瘍の転移と進行度。</p> <p>12 腫瘍 2 腫瘍の発生病理。腫瘍の発生原因。がん発生の外因、内因。</p> <p>13 腫瘍 3 悪性腫瘍の診断、治療、予防。</p> <p>14 老化と死 病理検査の意義。細胞診、組織診。手術時の迅速診断。病理解</p> <p>15 病理検査 病理検査の意義。細胞診、組織診。手術時の迅速診断。病理解剖。病理組織、細胞診の作製過程。</p>
科目の目的	放射線学には、疾患・病気に対する臨床的知識と理解が必要とされる。実際の臨床にどうかかわっていくかを学ぶためには、病院について学ぶことが大切であり、その一助として、病気の原因・経過および結果を追及し、病気における形態的、機能的変化を明らかにする病理学を総論的に学ぶ。先天異常、代謝異常、循環異常、炎症、腫瘍という病変病因の五大カテゴリーと、老化と死についても概略を学ぶ。 関連科目（後記）の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。到達度は試験により判定する。【知識・理解】
到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、放射線学に必要な内容の理解と知識を得る。
関連科目	生化学 解剖学Ⅰ、Ⅱ 生理学Ⅰ、Ⅱ 病理学 薬理学
成績評価方法・基準	試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れること。講義前に授業資料に目を通しておき、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。0.5時間
教科書・参考書	シンプル病理学 改訂第7版 南江堂
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	1. 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 2. 臨床医学の基礎 病態の基礎 疾病と障害の基礎
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：薬理学

授業コード：1R045

英文科目名称：Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>2, 3 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>4, 5, 6 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>7, 8 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>9 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>10, 11 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>12, 13 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体内で必要不可欠なミネラルの種類、欠乏症、過剰症について概説する。</p> <p>14 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p> <p>15 癌の生化学 生体を構成する細胞の周期と増殖機構を踏まえて、癌の発生メカニズムを解説する。また、現在汎用されている腫瘍マーカーについても概説する。</p>
科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を育成する。
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する。【知識・理解】
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後 質問は E-mail (k-takahashi@paz.ac.jp) でも受け付ける
国家試験出題基準	《人体の構造と機能および疾病の成り立ち》— I-1-A-a, 《人体の構造と機能および疾病の成り立ち》— I-2-A-a, 《人体の構造と機能および疾病の成り立ち》— I-2-B-b, 《人体の構造と機能および疾病の成り立ち》— I-11-A-d,
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 健康の概念の変遷、公衆衛生の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合</p> <p>第3回 環境と公衆衛生 人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題</p> <p>第4回 同 上 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準</p> <p>第5回 食と公衆衛生 食中毒の発生状況、食中毒の種類、食中毒の予防</p> <p>第6回 国民の健康と保健統計 健康指標、20世紀100年の変化</p> <p>第7回 同 上 年齢調整死亡率の意義と計算</p> <p>第8回 疫学の疫学と予防、予防の概念 疫学の概念、疫学調査方法、因果関係推論、スクリーニング</p> <p>第9回 同 上 感染症の疫学、新感染症予防法</p> <p>第10回 同 上 結核対策、HIV対策</p> <p>第11回 公衆衛生活動の実際 がんの予防、その他生活習慣病予防</p> <p>第12回 同 上 精神保健対策、介護保険制度</p> <p>第13回 同 上 母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策</p> <p>第14回 社会保障と医療の動向 社会保障の概要、国民医療費</p> <p>第15回 同 上 医療法改正の動向、地域医療連携、医療人材・医療資源の国際比較</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 60時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2016/2017版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
門傳 剛			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 概論 1 ＜薬物療法と食事療法＞薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。</p> <p>2 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。</p> <p>3 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>4 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>5 呼吸器疾患 1 感染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業性呼吸器疾患。</p> <p>6 呼吸器疾患 2 突発性間質性肺炎。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。</p> <p>7 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。</p> <p>8 循環器疾患 1 心不全。不整脈。</p> <p>9 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>10 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>11 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>12 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）</p> <p>13 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>14 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>15 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。【知識・理解】
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。
関連科目	解剖学Ⅰ、Ⅱ、病理学、生理学Ⅰ、Ⅱ
成績評価方法・基準	試験にて評価（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にいれておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。
教科書・参考書	特になし。
オフィス・アワー	講義日の昼休み。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。
国家試験出題基準	＜＜専門基礎＞＞-Ⅱ-11-ABCDE-abcdefg
履修条件・履修上の注意	特になし。

講義科目名称：看護技術論

授業コード：1R049

英文科目名称：Nursing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床心理学

授業コード：1R050

英文科目名称：Clinical Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：画像診断学 I

授業コード：1R051

英文科目名称：Image Diagnostics I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員			
山名 大吾			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：画像診断学Ⅱ

授業コード：1R052

英文科目名称：Image Diagnostics II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
担当教員			
山名 大吾			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
柏倉 健一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生体を構成する物質</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の構成単位：元素と原子、分子、イオン 生体を構成する物質：糖質、脂質、タンパク質とアミノ酸、核酸 <p>第2回 細胞の構造と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞膜 細胞小器官 細胞内構造体 細胞骨格と細胞の運動 <p>第3回 エネルギー代謝</p> <ul style="list-style-type: none"> 異化と同化 ATP 酵素 解糖系とクエン酸回路 酸化的リン酸化 脂質の分解 <p>第4回 動物の組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 上皮組織と結合組織 骨格筋の構造 筋収縮機構 筋肉におけるエネルギー代謝 血液の組成 <p>第5回 動物の器官</p> <ul style="list-style-type: none"> 消化系：消化と吸収、肝臓と膵臓 循環系：心臓、血管系とリンパ系 呼吸系：肺とガス交換 排出系：腎臓とその働き 感覚系：目、耳、その他 <p>第6回 神経系</p> <ul style="list-style-type: none"> 脳の構造と役割 末梢神経系 自律神経系 ニューロンと情報伝達：ニューロンの構造、活動電位、シナプス <p>第7回 ホルモンと生体調節</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体の調節とホルモン ホルモンの種類とその作用 ホルモンによる恒常性の維持 細胞調節因子 <p>第8回 免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然免疫：外的防御、内的防御、異物認識と応答 獲得免疫：体液性免疫と抗体、細胞性免疫 医学における免疫
科目の目的	人体機能の理解に必要な生物学の基礎知識を修得する。前半は、生体を構成する物質、細胞の構造と機能などのミクロ生物学を学び、後半は、動物の組織と器官、個体の調節、生体防御などマクロ生物学を学ぶ。本講義を通して、細胞生物学から人体生理学への橋渡しを行うとともに、生物学、解剖学、生理学の各科目の学修内容と合わせて、人体の構造と機能を総合的に理解できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 生体を構成する物質の種類と特徴について説明できる。 2, 細胞の構造と機能について説明できる。 3, エネルギー代謝の種類と仕組みについて説明できる。 4, 組織の種類と筋肉の収縮について説明できる。 5, 動物の器官の種類と主な役割について説明できる。 6, 神経系の種類とニューロンの働き、情報伝達について説明できる。 7, ホルモンの種類と恒常性の維持の仕組みについて説明できる。 8, 免疫の種類と機能について説明できる。
関連科目	生物学A・B、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	定期試験（70%）、レポート・小テスト（30%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布する資料に目を通し、不明点は各自で下調べをしてから授業に臨むこと。講義科目では、各回の講義に対して講義時間の2倍の授業外学修（自己学習）が必要となる。各講義は2時間と見做すため、各回の講義に必要な予習復習時間は4時間となる。本講義は、7.5回分の講義で構成されることから、全体で30時間の授業外学修（自己学習）を行うようにすること。
教科書・参考書	教科書：指定しない（必要な資料は別途配布する） 参考書：「医療・看護系のための生物学（改訂版）」田村隆明（裳華房）

オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
瀬山 士郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 医療基礎数学 微分積分学の基礎 講義は生きています。学生の皆さんの理解度などにより、進捗状況は変わりますので、各回ごとの内容ではなく、全体の講義内容をおおまかにお知らせします。</p> <p>2 初等関数とその微分 高校で学んだ初等関数とその微分と導関数の計算について、復習をかねて説明します。</p> <p>3 逆三角関数と微分 初等関数のうち、高校では扱わなかった逆三角関数について説明します。</p> <p>4 初等関数のテイラー展開 テイラー展開（関数を多項式で表現する）とその応用のオイラーの公式について説明します。</p> <p>5 微分法の実用 テイラー展開を用いて、関数の極値を求めるとはどのようなことかを説明します。</p> <p>6 積分と微分積分学の基本定理 積分とは何かを考え、微分との関係、微分積分学の基本定理について説明します。</p> <p>7 積分法の実用 積分を用いて、いろいろな図形などの面積や体積を計算します。</p> <p>8 微分方程式 微分方程式とは何かを考え、初等的に解ける微分方程式（分離形、一階線形）について説明します。</p>
科目の目的	高等学校の数学履修をもとにして、初等的な微分積分学の基礎を学ぶ。関係するほかの自然科学を理解するために必要な数学的素養を身につける。微分積分学の意味内容の理解に重点を置くが、最小限必要の計算力も育成する。
到達目標	初等関数への理解を深め、関数のテイラー展開が具体的な計算にどのように役立つかを理解する。微分積分学の基本定理が成立する理由を理解する。微分方程式の解法を理解する。
関連科目	医療基礎物理学 医療基礎化学 医療基礎生物学
成績評価方法・基準	期末試験80% 適宜行うレポート20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学Ⅱ（できれば数学Ⅲ）までの内容の理解。予習は求めないが、少なくとも講義時間と同程度の復習はすること。
教科書・参考書	教科書 「微分積分学20講」 数学・基礎教育研究会編 朝倉書店 参考書 1「基礎の数学」瀬山士郎 朝倉書店 2「大学新入生のための数学入門」石村園子 共立出版
オフィス・アワー	木曜日 講義終了後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
酒井 健一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学とは何か 元素と原子 化学学習のための基礎</p> <p>第2回 元素の性質と周期律 分子とは何か 元素の性質 分子と化学結合</p> <p>第3回 物質の三態 気体、液体、固体の化学</p> <p>第4回 化学平衡 化学反応速度 化学平衡 中和滴定 反応の種類と速度</p> <p>第5回 無機物質と有機物質 無機および有機物質の一般的性質と種類</p> <p>第6回 放射線の化学 基礎放射化学</p> <p>第7回 生体分子 脂質 糖質 タンパク質 核酸</p> <p>第8回 医療基礎化学まとめ 放射化学における基礎化学の役割</p>
科目の目的	診療放射線技師に必要な基礎化学を学ぶ。具体的には、元素と原子の性質、物質の態様、化学のルール、有機無機化学を学び、さらに核酸、タンパク質、糖質、脂質などの生体分子の性質などを学習する。
到達目標	診療放射線技師に必要な基礎化学を学び、さらに進んだ専門科目を深く理解するための道具とする。本講義で学ぶ化学では、(1) 元素とその性質や特性などを理解し、(2) 化学的な法則、定義、規則などを学ぶことができる。さらにこれらの知識に立脚して(3) 放射化学学習の入口へ到達できる。
関連科目	放射化学、医療基礎物理学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、課題(30%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2～3時間
教科書・参考書	教科書：「書名(大学で学ぶ化学・化学同人)」 著者：川瀬雅也・山川純次 参考書：「書名(生命を知るための基礎化学—分子の目線でヒトを見る・丸善出版)」 著者：川井正雄 上記のほか、必要に応じて自製のプリントを配布する。
オフィス・アワー	金曜日 12:10～12:50
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
下瀬川正幸			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 放射線物理とは何か 放射線とは何か、物理とは何か、放射線物理とは何か</p> <p>第2回 特殊相対性理論入門 静止エネルギー、特殊相対性理論、運動量とエネルギー</p> <p>第3回 量子論入門 光の波動性と粒子性、光子の運動量</p> <p>第4回 原子の構造 ボーアの原子模型</p> <p>第5回 X線とは何か 特性X線とオージェ電子、制動X線</p> <p>第6回 原子核の構造 中性子の発見、原子核の大きさ、原子核の質量と結合エネルギー、核力</p> <p>第7回 放射能とは何か 放射能の意味、放射性同位体、放射能の単位</p> <p>第8回 α線、β線、γ線 壊変の法則、α壊変、β壊変、γ線の放出と内部転換電子の放出、自発核分裂</p>
科目の目的	診療放射線技師に必要な基礎物理学を学ぶ。具体的には原子物理学を学び、放射線技術に不可欠な微視的世界の現象について理解する。
到達目標	放射線について学ぶ最初の科目である。各専門分野において個々の事象を学ぶ前に、放射線に関する基本的事項について系統的に学習する。 個別目標： 1. 原子、原子核の構造について説明できる。 2. X線、 α 線、 β 線、 γ 線の発生機序について説明できる。
関連科目	物理学A、物理学B、放射線物理学Ⅰ、放射線物理学Ⅱ、放射線物理学演習
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書の該当箇所を精読しておくこと（2時間）。授業後は教科書と配布プリントの内容を復習すること（2時間）。
教科書・参考書	教科書：「わかりやすい放射線物理学（改訂2版）」多田順一郎（オーム社），2008. 参考書：「基礎から学ぶ，医療技術者のための放射線物理学」丸山浩一（医療科学社），2006.
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
坂本 重己			

授業形態	講義
授業計画	<p>1回目 人間と電気的生活 商用電源をはじめとし、人間生活に最低必要な電気とのかかわりと基礎を理解する。</p> <p>2回目 発電機と電動機の仕組み 発電方法と電動機の仕組みについて理解する。</p> <p>3回目 オームの法則1 胴体・絶縁体について理解するとともに電流・電圧降下について理解する。</p> <p>4回目 オームの法則2 オームの法則を用いて直並列回路の合成抵抗の計算、電圧降下の計算方法を理解する。</p> <p>5回目 静電容量1 平行板コンデンサを基に電荷・静電容量・電圧の関係を理解する。</p> <p>6回目 静電容量2 静電容の計算（直列回路・並列回路）方法を理解する。</p> <p>7回目 電気回路の応用 キルヒホッフの法則・ブリッジ平衡回路の求め方を理解する。</p> <p>8回目 総括（まとめ） 診療放射線技師国家試験過去問を参考に演習を実施し電気回路計算実力を習得する。</p> <p>9回目 電子について 電子放出・電圧・電流について基礎を理解する。</p> <p>10回目 電界と次回の中の電子運動 クーロンの法則について理解する。</p> <p>11回目 半導体 真性半導体、不純物半導体（P形・n 真性半導体、不純物半導体（N形・P形）の基礎を理解する。</p> <p>12回目 ダイオードの特性 ダイオードの特性（V-I特性）をはじめ、順方向・逆方向・整流作用について理解する。</p> <p>13回目 特殊ダイオードの特性1 定電圧ダイオード・可変容量ダイオード・トンネルダイオードについて理解する。</p> <p>14回目 特殊ダイオードの特性2 発光ダイオード・フォトダイオード・レーザダイオードについて理解する。</p> <p>15回目 総括（まとめ） 電子工学総論・診療放射線技師国家試験過去問を実施し医用工学への理解とじちゆ力をつける。</p>
科目の目的	高度な医療機器を操作するうえで必要とされる電気工学の基本法則・理論等に関する基礎学習を行い、診療放射線技師として最低必要な基礎知識及び国家試験に向けて電気工学・電子工学の基礎を習得する。
到達目標	電気工学ではオームの法則から始まり、電気回路の基礎を修得する。電子工学では半導体を中心に電子回路の基礎を修得する。
関連科目	医療放射線機器工学Ⅰ、医療放射線機器工学Ⅱ、医療放射線機器工学Ⅲ、放射線治療機器工学、核医学機器工学
成績評価方法・基準	小テスト（10%）、定期試験（90%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習、復習を行う。特に復習は最低一時間は必要。
教科書・参考書	電気工学「わかりやすい電気基礎（コロナ社）」、電子工学「電子工学の基礎（コロナ社）」
オフィス・アワー	毎週水曜日・金曜日午後（13時から18時）
国家試験出題基準	診療放射線技師として医療機器を取り扱うため基礎的な電気電子理論を学習する。具体的には、直流回路（オームの法則・キルヒホッフの法則・ブリッジ回路など）、電磁誘導、三相交流、半導体の性質・特性など、パルス回路等についても学ぶ。
履修条件・履修上の注意	学習内容は必ずその日に理解するようにしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 重己			

授業形態	講義
授業計画	<p>1回目 直流と交流の特徴 身近な生活の中で直流と交流の違いとその特徴について理解する。最大値、実効値、平均値等</p> <p>2回目 正弦波と瞬時式 正弦波交流の発生と交流の一般式について理解する。</p> <p>3回目 R-L-C回路1 抵抗R、自己インダクタンスL、キャパシタンスC及びインピーダンスZの概念について理解する。</p> <p>4回目 R-L-C回路2 それぞれの直列回路、並列回路の計算を理解する。</p> <p>5回目 共振回路 共振回路について理解するとともに、共振回路の計算とその応用について理解する。</p> <p>6回目 電磁気学の基礎 電流と磁界の相互作用、誘導作用、ヒステリシスループについて理解する。</p> <p>7回目 交流電力 交流電力（皮相・有効・無効電力）の計算方法と力率について理解する。</p> <p>8回目 総括（まとめ） 国家試験過去問等の小テストを実施し、交流理論についての理解を深める。</p> <p>9回目 電子工学の基礎 半導体の特性の基礎を復習し、トランジスタの基礎知識を理解する。</p> <p>10回目 トランジスタ回路 トランジスタの接地方式（エミッタ接地、ベース接地、コレクタ接地）の特性と特徴を理解する。</p> <p>11回目 電界効果トランジスタ 電界効果トランジスタの特性及びバイポーラトランジスタの比較（入出力インピーダンス）について</p> <p>12回目 電子回路1 演算増幅回路（OPアンプ）の基礎と計算方法を理解する。</p> <p>13回目 電子回路2 増幅回路を用いた基本回路及び電圧利得、電流利得、電力利得の計算を理解する。</p> <p>14回目 電子回路3 過度現象の計算方法とその応用について理解する。</p> <p>15回目 総括（まとめ） 国家試験過去問演習テストを行い、理解できなかった箇所を再度学習理解する。</p>
科目の目的	医療電気では医療現場では欠かせない交流理論（正弦波交流・単相交流・三相交流）、電子工学ではトランジスタを基に電子工学の医療機器への応用（過度現象等）について理解する。
到達目標	臨床現場では診療放射線技師として高度な医療機器を扱ううえで医療電気工学、医療電子工学は欠かせないものである。電気工学電子工学の基礎をしっかりと修得する。
関連科目	医療放射線機器工学Ⅰ、医療放射線機器工学Ⅱ、医療放射線機器工学Ⅲ、放射線治療機器工学
成績評価方法・基準	小テスト（10％）・定期試験（90％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1年次の講義資料。予習・復習は最低1時間は必要。特に計算問題が多いので復習が重要である。
教科書・参考書	医療電気「わかりやすい電気基礎（オーム社）」、電子工学Ⅱ「電子工学の基礎（オーム社）」、プリント資料及び「医用工学一必勝国試テキスト本（坂本自作）」
オフィス・アワー	毎週水曜日（午後1時から18時）
国家試験出題基準	診療放射線技師が取り扱う医療機器に必要な医療電気・電子の基礎的な知識を基に、基本的な電気回路から複雑な回路まで学習する。具体的には静電容量回路、磁気と変圧器、整流回路、二極真空管など基本的な仕組みを学ぶ。
履修条件・履修上の注意	計算問題の多い科目です。学んだ内容は必ずその日に理解することが大切です。

講義科目名称：医療電気・電子工学演習

授業コード：1R059

英文科目名称：Practice in Basic Electrical Engineering and Elec...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
坂本 重己			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療電気・電子工学実験

授業コード：1R060

英文科目名称：Experiment in Basic Electrical Engineering and El...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
坂本 重己			

授業形態	実験
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療統計学

授業コード：1R061

英文科目名称：Medical Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			
黒崎 正弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 放射線医療学とは 【倉石】 本科目で検討する課題を概観し、自律した診療放射線技師へのロードマップを検討する</p> <p>第2回 医学の歴史 【黒崎】</p> <p>第3回 放射線学の歴史 【黒崎】</p> <p>第4回 放射線治療の未来、既出事項のまとめ 【黒崎】</p> <p>第5回 放射線医療技術の歴史 【倉石】 放射線の医療における利用の変遷をたどり、その役割を理解する</p> <p>第6回 診療放射線技師という職 【倉石】 放射線技師という職業の成立過程を学び、職責について考察する</p> <p>第7回 医学と医療、科学と技術 【倉石】 医学と医療、科学と技術の違いと関係を理解する</p> <p>第8回 医療専門職と医療技術の受益者 【倉石】 医療技術の受益者と技術の提供者の関係について考察する</p> <p>第9回 社会における医療 【倉石】 医療の社会性（法律、政治・政策などとの関係）について理解する</p> <p>第10回 医療制度と経済 【倉石】 日本における医療制度について理解し、医療資源の活用を考察する</p> <p>第11回 医療の質とその評価 【倉石】 医療の質を評価する観点について理解する</p> <p>第12回 患者中心の医療とは 【倉石】 医療機関を訪れる人に対する尊厳について考察する</p> <p>第13回 医学・医療における研究と社会 【倉石】 医科学研究と医療技術者の研究の在り方について社会との関連で考察する</p> <p>第14回 診療放射線技師に求められること 【倉石】 保健・医療における診療放射線技師の役割について考察する</p> <p>第15回 診療放射線技師・技術の未来 【倉石】 放射線医療の今後について考察するとともに、社会における診療放射線技師の役割を確認する</p>
科目の目的	診療放射線技師の業務内容は、エックス線の発見以降、放射線画像検査や放射線治療として発展してきた。放射線の医療における利用の歴史の変遷とともに、診療放射線学が扱う放射線画像検査、放射線治療の技術革新の変遷と医療専門職としての位置づけについて学び、放射線医療学がもたらしてきた社会的な機能を理解する。また、同様に放射線医学利用を扱う、放射線医学との違いについて対比し、その趣旨の違いについて医療専門職の立場から理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線の医療における利用の歴史について述べることができる。 2. 放射線医学の歴史について述べるができる。 3. 診療放射線技師職の制度・教育の変遷について説明できる。 4. 科学と技術、医学と医療の関係について説明できる。 5. 医療専門職者と医療利用者との関係について述べるができる。 6. 日本の医療制度について説明できる。 7. 医療の社会的側面について述べることができる。 8. 医療の質と評価法について述べることができる。 9. 診療放射線技師の仕事内容と研究について述べることができる。 10. 診療放射線技師の社会的役割について述べることができる。
関連科目	すべての領域に関連するが、特に診療放射線技師としての考え方の基盤を形成する科目。 【思考・判断】【態度】【関心・意欲】【技能・表現】
成績評価方法・基準	授業中に行う確認テスト(20%)、課題(20%)、定期試験(60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：教科書・配布資料の該当部分を精読し、疑問点を抽出しておくこと。 準備学習の時間：1時間程度
教科書・参考書	教科書：「医療放射線技術学概論講義」山下一也著（日本放射線技師会出版会） 参考書：「放射線医学史」館野之男（岩波書店）1973（現在入手不可能）

オフィス・アワー	黒崎:第4回講義終了後30分 倉石:木曜日12:00~18:00
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	放射線を扱うものとしての歴史的な基礎知識から医学全般について知識を整理するとともに、今生きている社会での医療関連情報に注意を向け、学生自身の考えをまとめる習慣を持つこと。

講義科目名称：放射線救急医学

授業コード：1R063

英文科目名称：Emergency Medical Radiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
小池 正行			
加藤 英樹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線文献講読 I

授業コード：1R064

英文科目名称：Literature Reading on Radiology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
酒井 健一			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線文献講読Ⅱ

授業コード：1R065

英文科目名称：Literature Reading on Radiology II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員			
酒井 健一			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線物理学 I

授業コード：1R066

英文科目名称：Radiation Physics I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
(H30着任予定者)			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線物理学Ⅱ

授業コード：1R067

英文科目名称：Radiation Physics II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
(H30着任予定者)			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線物理学演習

授業コード：1R068

英文科目名称：Practice in Radiation Physics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
(H30着任予定者)			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射化学

授業コード：1R069

英文科目名称：Radiochemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
酒井 健一			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射化学演習

授業コード：1R070

英文科目名称：Practice in Radiochemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
酒井 健一			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 放射線生物学の基礎 細胞，遺伝子，がん</p> <p>第2回 放射線の生物作用1 放射線と物質の相互作用</p> <p>第3回 放射線の生物作用2 分子レベル，細胞レベルでの放射線の作用</p> <p>第4回 単位と用語 線量，効果量，障害，放射能</p> <p>第5回 放射線による細胞の死 ヒット理論，生存率曲線</p> <p>第6回 放射線の効果を修飾する因子 線質，酸素，薬剤，細胞周期</p> <p>第7回 突然変異と染色体異常 DNAの損傷と回復</p> <p>第8回 放射線感受性 ベルゴニー・トリボンドーの法則</p> <p>第9回 放射線による組織・臓器の障害 潜伏期，体積効果，しきい値</p> <p>第10回 放射線の個体レベルでの反応 急性障害，胎児被ばく，内部被ばく</p> <p>第11回 放射線発癌と遺伝的影響 機序，リスクへの影響因子</p> <p>第12回 放射線治療で用いる放射線 LET，OER</p> <p>第13回 放射線治療における線量分割 分割照射の意義，4つのR</p> <p>第14回 放射線治療と併用される治療法 化学療法，温熱療法</p> <p>第15回 診療放射線技師と放射線生物学 医療放射線，環境放射線</p>
科目の目的	<p>近年、放射線治療の先端化と多様化に伴い、分子生物・免疫学、医学物理学及び医療工学が複雑に相互関連してきた。本科目では放射線医科学者及び放射線技術科学者として癌治療に貢献する能力を身に付け、さらに放射線治療に関連する様々な臨床及び基礎研究を遂行する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、放射線生物学一般、放射線腫瘍学一般、放射線免疫学に関する内容を理解する。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 放射線の生物への作用機序について説明できる。 放射線の細胞に対する作用について説明できる。 主要な組織・臓器に対する放射線の影響について説明できる。 放射線の個体への影響について説明できる。 妊婦の放射線被ばくと胎児への影響について説明できる。 放射線の内部被ばくについて説明できる。 放射線による発癌と遺伝的影響について説明できる。 放射線の生物学的効果の修飾因子について説明できる。 分割照射の意義とその放射線生物学的背景について説明できる。 放射線のLETと生物学的効果について説明することができる。 温熱療法について説明することができる。 放射線に関する有資格者として放射線被ばくの影響を評価できる。
関連科目	生物学A・B、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、医療基礎生物学、放射線物理学、放射化学、放射線生物学演習、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線腫瘍学、放射線安全管理学、診療放射線技師の義務と役割
成績評価方法・基準	授業時間内に行う確認テスト（15%）、課題（15%）、定期試験（70%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：教科書の該当部分を精読し、疑問点を抽出しておくこと。</p> <p>準備学習の時間：1時間程度</p>

教科書・参考書	教科書：「放射線生物学」江島洋介・木村博共編(オーム社) 参考書：
オフィス・アワー	木曜日 12：00～18：00 上記以外の時間については、メール等で確認のこと。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	放射線の生物への有害性が診療放射線技師資格の存在根拠である。放射線を正しく怖がるための基礎であり、放射線治療の基盤でもある本科目の内容を理解し、使える知識として修得してほしい。

講義科目名称：放射線生物学演習

授業コード：1R072

英文科目名称：Practice in Radiation Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線計測学 I

授業コード：1R073

英文科目名称：Radiation Measurement I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
菅 和雄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線計測学Ⅱ

授業コード：1R074

英文科目名称：Radiation Measurement II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
菅 和雄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線計測学演習

授業コード：1R075

英文科目名称：Practice in Radiation Measurement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員			
菅 和雄			
今尾 仁			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線計測学実験

授業コード：1R076

英文科目名称：Experiment in Radiation Measurement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
菅 和雄			
今尾 仁			

授業形態	実験
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
小池 正行	谷口 杏奈		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病院（診療所）と診療放射線技師（谷口） 病院における診療放射線技師の位置づけについて説明する。</p> <p>第2回 診療放射線技師と医療社会（谷口） 診療放射線技師が、医療社会にどのように携わってきているのかについて説明する</p> <p>第3回 医療画像とは、（土屋） 診療放射線技師のの仕事の一つに、患者さんの診療画像を作るといふのがあふ。その画像とは何かについて説明をする。</p> <p>第4回 放射線と放射能（土屋） 放射線と放射能は同一ではない。何が違ふのかを説明する。</p> <p>第5回 医療用機器と放射線（1）（谷口） X線を照射して、画像得るための機器にはいくつかあふ。ここでは造影剤や補助具を用いないで得られるが装置について講義する。</p> <p>第6回 医療用機器と放射線（2）（谷口） X線と造影剤を使用して得られる得られる画像について講義する。</p> <p>第7回 医療用X線機器（小池） X線機器には、検査目的に応じたいくつあふ種類の機器あふ。検査目的の即した内容で話を進める。</p> <p>第8回 医療用機器（土屋） これまでの画像診断はX線を用いた検査中心であつた。近年は、磁場、超音波を用いた画像が得られるよふになつてきた。ここでは、X線を使用しない画像について講義する。</p> <p>第9回 医療用機器の安全とQC（土屋） 医療用機器は、使い方を間違えろと事故が発生したり、診断にそぐわぬ画像が出ることもあふ。ここでは機器の安全管理を中心に講義する。</p> <p>第10回 医療事故（谷口） 医療事故は、機器の操作間違ひだけで起こるわけではない。医療従事者による勘違い、不十分なコミュニケーションによつても起こる。これらについて、事例を挙げて講義する。</p> <p>第11回 医療用画像装置（土屋） X線が発見された当時は、写真による画像が一般的であつた。しかし近年ではコンピュータに開発に伴い画像がデジタル化されてきた。その原理と画像を得るプロセスについて講義する。</p> <p>第12回 医療用機器の将来 PACS（土屋） 画像がデジタル化されたことにより、検査室と診察室をコンピュータで画像のやり取りが可能になつた。そのプロセスについて講義する。</p> <p>第13回 診療用X線装置のあれこれ（谷口） これまで、講義した内容を時代の変遷に基づいて、近年使用されてい機器について述べる</p> <p>第14回 診療用放射線技師の行動指針（谷口） 診療放射線技師の行動指針には、患者のための接遇規範、業務の標準化あふ。それらについて講義する。</p> <p>第15回 総括（土屋） これまでの内容についてまとめる</p>
科目の目的	診療放射線技師の位置づけについて説明する。放射線技師の仕事は単独で成立しているわけではない。医療社会の歯車の一つである。医療社会とは何かを理解した後、病院とは何か、診療所とは何かを知ることになる。この中で、我々の仕事の概要について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療放射線技師の仕事が理解できる 2. 診療用機器の概要を理解できる。 3. チーム医療とは何かを理解できる。 4. 患者さんとのコミュニケーションの意味が理解できる
関連科目	診療画像解析学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、核医学検査技術学Ⅰ、Ⅱ、放射線治療技術学Ⅰ、Ⅱ
成績評価方法・基準	各先生のレポート（100点満点）とし、その合計点の1/15。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	初めて聞く内容が多いので、復習に重点を置くこと。2～30分
教科書・参考書	教科書：「診療放射線技師のための臨床実践ハンドブック」文光堂 参考書：「図解 診療放射線技術実践ガイド」文光堂
オフィス・アワー	土屋：随時（前もつてメールあふると良い） 谷口：随時（前もつてメールあふると良い）

	小池：随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	3.1.1 ² , 3.1.4, 3.4.1 ³ , 3.6,
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
加藤 英樹	谷口 杏奈		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 医療画像とは何か（土屋） X線画像の成り立ち、その背景、位置づけについて学ぶ</p> <p>第2回 X線画像の基本特性（土屋） X線画像が如何にして作成されるかについて学ぶ</p> <p>第3回 X線の減弱と防護（土屋） X線の強さ、弱さは何によって決まるのか、いかに防護すべきかについて学ぶ</p> <p>第4回 画像の成り立ち（1）（土屋） 画像成立の条件について学ぶ（アナログ）</p> <p>第5回 画像の成り立ち（2）（土屋） 画像成立の条件について学ぶ（デジタル）</p> <p>第6回 画像の評価（谷口） 画像の評価法について学ぶ</p> <p>第7回 撮影用補助具（谷口） 撮影する際の補助具について学ぶ</p> <p>第8回 撮影用周辺機器（谷口） X線を出す機器があるだけでは、画像は作成されない。作成するための周辺機器について学ぶ</p> <p>第9回 撮影基準と指標（谷口） X線撮影の基本となる基準点について学ぶ</p> <p>第10回 撮影基準と計測（谷口） X線画像は正確な大きさを示すわけではない。そこで正確な大きさを指し示す計測が存在する。これについて学ぶ</p> <p>第11回 ポジショニング（1）（谷口） 人の画像はある基準点を持って行われる。医師が要求する画像を得るために基準点をベースにした撮影法について学ぶ（頭部、脊椎、上肢）</p> <p>第12回 ポジショニング（2）（谷口） 人の画像はある基準点を持って行われる。医師が要求する画像を得るために基準点をベースにした撮影法について学ぶ（胸部、腹部、下肢）</p> <p>第13回 診療放射線技師の倫理（加藤） 医療社会における、診療放射線技師の行動倫理について学ぶ</p> <p>第14回 診療放射線技師とチーム医療（加藤） 医療社会における、診療放射線技師位置づけについて学ぶ</p> <p>第15回 総括（土屋） これまでに学んだ内容についてまとめを行う</p>
科目の目的	診療放射線技師の役割は大別して画像の作成と放射線治療がある。得られた画像が臨床でいかなる位置づけにあるかを理解し、画像を得るにあたっては、物理的背景と人体解剖学によってどのような画像に構成されているかを知る。また画像を作成するにあたっては、対象となるのは常に人であり、受信者の接遇および医療倫理について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 放射線技師として必要な用語を知る、かつ理解できること。 医療画像に成り立ちを理解し、解剖学との関連性について理解する。 医療社会における診療放射線技師の位置づけを理解する。
関連科目	診療画像解析学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、核医学検査技術学Ⅰ、Ⅱ、放射線治療技術学Ⅰ、Ⅱ
成績評価方法・基準	レポート（100%）各先生に提出されたレポート総点数（100点満点）の1/15
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	初めて聞く内容が多いので、復習に重点を置くこと。2～30分
教科書・参考書	教科書：「放射線写真学」富士フィルムメディカル株式会社 参考書：「図解診療放射線技術実践ガイド」文光堂
オフィス・アワー	各先生とも随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	3.1.2～6、3.2.5、3.4.1、
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線学実習直前演習

授業コード：1R079

英文科目名称：Preliminary Practice in Medical Radiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
小川 清			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線学総合臨床実習

授業コード：1R080

英文科目名称：General Clinical Practice in Medical Radiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
小川 清			
今尾 仁			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
加藤 英樹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 診療放射線技師の役割 「診療画像検査」と「放射線治療」と何かについて説明する</p> <p>第2回 撮影の基準線（面）、体表解剖、撮影条件の設定 X線撮影は、解剖学的基準面を基本とした撮影基準線（面）幾何学的投影法がある。これら立体的構造について説明する。</p> <p>第3回 デジタル画像の特徴と最適化 近年医用画像はデジタル化が進み単純撮影の大部分がDR画像へと移行した。こうしたデジタル画像の特徴、経済効果について述べる。</p> <p>第4回 胸部撮影 胸部正面画像を中心に画像の成り立ちから読影のチェックポイントについて述べる</p> <p>第5回 腹部撮影 腹部正面画像を中心に画像の成り立ちから読影のチェックポイントについて述べる</p> <p>第6回 頭部撮影 頭蓋骨は複雑な立体構造と形状を示している。ここでは、全体像と特別な目的を持った特殊撮影法について説明する。</p> <p>第7回 上肢撮影 肩から、指の先までのX線撮影法の手技について説明する。</p> <p>第8回 脊椎撮影 脊椎撮影は骨の構造ばかりではなく神経、血管、筋肉、靭帯などの位置にも十分理化しておく必要がある。これらについて</p> <p>第9回 骨盤、胎児撮影 外傷などによる骨折、脱臼、および炎症、腫瘍などが原因となる骨変化像について説明する</p> <p>第10回 下肢撮影 股関節から、足の指までのX線撮影法について説明する。</p> <p>第11回 歯科撮影 回転パノラマ撮影、口内X線撮影、頭部規格撮影について説明する。</p> <p>第12回 乳房撮影 X線吸収が乳腺組織とそれに近い腫瘍の診断を明確にするための撮影技術について説明する。</p> <p>第13回 小児撮影 小児撮影は、コミュニケーションが取れない患者である。コミュニケーションの取れない患者の撮影法について説明する。</p> <p>第14回 救急撮影 救急撮影の多くは、胸部と腹部であるが、それらを除いた検査法について説明する。</p> <p>第15回 総括 これまでの授業についてまとめる。</p>
科目の目的	X線を使用した胸部、腹部、骨部等の一般撮影検査法について学ぶ。なぜX線撮影を行うのか、どのように撮影するのか、得られる情報は何か、について講義する。ここでは、単に撮影手技を学ぶだけではなく、受信者の心理状態や、コミュニケーション、撮影における環境、他の職種との連携について述べる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ X線撮影における診療放射線技師の役割について理解する。 ・ 各撮影部位によって異なる撮影法の目的を理解し、実践できるようにする。 ・ 撮影における患者接遇を理解する。
関連科目	診療画像解析学 I、II、III、医療放射線機器学 I、II、III、
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	初めて聞く内容が多いので、復習に重点を置くこと。2～30分
教科書・参考書	教科書：「X線撮影技術学」オーム社
オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	3.1.1, 3.1.3. A~D,
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学Ⅱ

授業コード：1R082

英文科目名称：Medical Image Analysis II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学Ⅲ

授業コード：1R083

英文科目名称：Medical Image Analysis III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
菅 和雄			
谷口 杏奈			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学演習

授業コード：1R084

英文科目名称：Exerise in Madical Image Analysis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学実習 I

授業コード：1R085

英文科目名称：Practice in Madical Image Analysis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
小川 清	小池 正行	今尾 仁	

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学実習Ⅱ

授業コード：1R086

英文科目名称：Practice in Madical Image Analysis II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学実習Ⅲ

授業コード：1R087

英文科目名称：Practice in Madical Image Analysis III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
菅 和雄			
谷口 杏奈	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学特論

授業コード：1R088

英文科目名称：Advanced Medical Image Analysis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
菅 和雄 他			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 診療画像解析学 I で用いられる医療放射線機器</p> <p>第2回 X線の物理、X線の発生と減弱</p> <p>第3回 X線による像の形成</p> <p>第4回 X線管装置の歴史、診断用X線管の構造</p> <p>第5回 X線管の特性と構造、許容負荷と熱容量</p> <p>第6回 付属機器、可動絞りと散乱線除去グリッド</p> <p>第7回 X線高電圧装置（1：変圧器式X線高電圧装置、2 ピーク形X線高電圧装置、6 および12 ピーク形X線高電圧装置）</p> <p>第8回 X線高電圧装置（2：コンデンサ式X線高電圧装置、インバータ式X線高電圧装置、新しい動向）</p> <p>第9回 自動露出制御装置と操作パネル</p> <p>第10回 デジタル一般X線撮影装置（FPD方式）</p> <p>第11回 デジタル一般X線撮影装置（CR方式）</p> <p>第12回 画像センサと表示装置、液晶ディスプレイ</p> <p>第13回 画像診断装置の概要</p> <p>第14回 一般X線撮影装置</p> <p>第15回 トモシンセシス</p>
科目の目的	本科目においてはX線撮影で用いられる診療画像機器についての基礎的知識を習得する事を目的とする。X線透視撮影装置、循環器用X線撮影装置、乳房用X線装置、X線CT装置について撮影・撮像原理、システムの構成と特長、動作原理、安全管理などについて学習する。また、造影剤自動注入器の取扱い方法と機器の構造、原理についても理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・診療画像機器についての基礎的知識を習得する ・診療画像機器について撮影・撮像原理について理解する ・システムの構成と特長、動作原理、安全管理について理解する。
関連科目	診療画像解析学 I
成績評価方法・基準	期末試験 80%、ミニテスト 20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の自己学習（予習）90分、講義後の復習90分
教科書・参考書	教科書：新・医用放射線科学講座 診療画像機器学 第2版（岡部哲夫・小倉敏裕・石田隆行 編）
オフィス・アワー	授業開始前と終了後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療放射線機器学Ⅱ

授業コード：1R090

英文科目名称：Medical Radiation Equipments II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
小池 正行			
加藤 英樹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療放射線機器学Ⅲ

授業コード：1R091

英文科目名称：Medical Radiation Equipments III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
菅 和雄			
谷口 杏奈			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 画像検査と画像解剖学、X線画像</p> <p>第2回 頭蓋骨の単純X線画像</p> <p>第3回 頭頸部の血管造影</p> <p>第4回 咽頭、喉頭の単純X線画像</p> <p>第5回 脊椎の単純X線画像</p> <p>第6回 胸部の単純X線画像</p> <p>第7回 心血管の造影画像</p> <p>第8回 腹部の単純X線画像</p> <p>第9回 腹部の血管造影画像</p> <p>第10回 消化管の造影画像</p> <p>第11回 胆道系・泌尿器系の造影画像</p> <p>第12回 骨盤部の単純X線画像</p> <p>第13回 生殖器系の造影画像</p> <p>第14回 マンモグラフィ</p> <p>第15回 四肢の単純X線画像</p>
科目の目的	診療放射線技師が行う画像検査は、人体内部の状態を解剖学的構造として描画するもの、生理機能を可視化する機能画像などがある。また、画像再構成によって再構築された三次元画像や時間軸に沿って収集されたデータから構成される動画画像など様々である。本科目では、単純X線撮影や造影X線撮影などの画像検査において描出された診療画像において、人体の内部構造がどのように抽出されるのか画像診断学の立場から、画像解剖学で学んだ基礎的知識と対比させ、読影の補助として理解する。
到達目標	・画像検査で生成される医療画像から、画像診断に必要な画像解剖と疾病の知識を学ぶ。
関連科目	診療画像解析学 I、診療画像解析学II、医療放射線機器学 I、医療放射線機器学 II
成績評価方法・基準	期末試験 80%、ミニテスト 20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の自己学習（予習）90分、講義後の復習90分
教科書・参考書	（教科書）若葉マークの画像解剖学 改定第2版、メディカルビュー
オフィス・アワー	授業開始前と終了後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解剖学Ⅱ

授業コード：1R093

英文科目名称：Medical Imaging Anatomy II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 英樹			
小池 正行			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学臨床実習 I

授業コード：1R094

英文科目名称：Clinical Practice in Medical Image Analysis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
小川 清			
小池 正行	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解析学臨床実習Ⅱ

授業コード：1R095

英文科目名称：Clinical Practice in Medical Image Analysis II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
小川 清			
小池 正行	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学検査技術学 I

授業コード：1R096

英文科目名称：Nuclear Medicine Technology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
渡邊 浩			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学検査技術学Ⅱ

授業コード：1R097

英文科目名称：Nuclear Medicine Technology II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
渡邊 浩			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学機器工学

授業コード：1R098

英文科目名称：Nuclear Medicine Equipment Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
渡邊 浩			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学検査技術学演習

授業コード：1R099

英文科目名称：Exercise in Nuclear Medicine Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
渡邊 浩			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学検査技術学実習

授業コード：1R100

英文科目名称：Practice in Nuclear Medicine Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
渡邊 浩			
今尾 仁			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：核医学検査技術学臨床実習

授業コード：1R101

英文科目名称：Clinical Practice in Nuclear Medicine Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
渡邊 浩			
小川 清	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学 I

授業コード： 1R102

英文科目名称：Radiation Therapy Technologies I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学Ⅱ

授業コード：1R103

英文科目名称：Radiation Therapy Technologies II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療機器工学

授業コード：1R104

英文科目名称：Radiation Therapy Equipment Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線腫瘍学

授業コード：1R105

英文科目名称：Radiation Oncology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
黒崎 弘正			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学演習

授業コード：1R106

英文科目名称：Exercise in Radiation Therapy Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
倉石 政彦			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学実習

授業コード：1R107

英文科目名称：Practice in Radiation Therapy Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			
今尾 仁			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学臨床実習

授業コード：1R108

英文科目名称：Clinical Practice in Radiation Therapy Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
倉石 政彦			
小川 清	今尾 仁		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療画像情報学 I

授業コード：1R109

英文科目名称：Medical Imaging Information I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
星野 修平			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療画像情報学Ⅱ

授業コード：1R110

英文科目名称：Medical Imaging Information II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
星野 修平			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線情報システム学

授業コード：1R111

英文科目名称：Radiation Information System

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
星野 修平			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療画像情報学演習

授業コード：1R112

英文科目名称：Exercise in Medical Image Information

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員			
星野 修平			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線安全管理学

授業コード：1R113

英文科目名称：Radiation Safety Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
坂本 重己			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線技師の義務と役割

授業コード：1R114

英文科目名称：Duty and Role of Radiological Technologist

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
小川 清			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線関係法規

授業コード：1R115

英文科目名称：Laws and Regulations of Radiation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
小川 清			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療安全管理学

授業コード：1R116

英文科目名称：Medical Safety Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
土屋 仁			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線科学特別講義

授業コード：1R117

英文科目名称：Radiation Science Special Lecture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁 他			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線学総合演習

授業コード：1R118

英文科目名称：General Exercise of Radiological Sciences

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	2単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
専任教員全員			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線技術と研究

授業コード：1R119

英文科目名称：Radiological Technology and Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
土屋 仁 他			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線学研究Ⅰ

授業コード：1R120

英文科目名称：Radiological Technology ResearchⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
講師以上の専任教員全員			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療放射線学研究Ⅱ

授業コード：1R121

英文科目名称：Radiological Technology Research II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	必修
担当教員			
土屋 仁			
講師以上の専任教員全員			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	